



2019年度 JLA海水浴場ヒヤリング実施 結果報告書

ヒヤリング実施海水浴場

- | | |
|-----------|----------------------------------|
| 《徳島県徳島市》 | ①小松海水浴場 |
| 《香川県さぬき市》 | ②津田の松原海水浴場 |
| 《岡山県玉野市》 | ③渋川海水浴場 |
| 《京都府宮津市》 | ④丹後由良海水浴場
⑤天橋立海水浴場
⑥府中海水浴場 |

公益財団法人 日本ライフセービング協会
溺水防止救助救命本部
パトロール能力向上委員会

令和2年1月21日

～目次～

- ・2019年度JLA海水浴場ヒヤリング実施目的
- ・2019年度JLA海水浴場ヒヤリング項目
- ・2019年度JLA海水浴場ヒヤリング実施ルート
- ・2019年度JLA海水浴場ヒヤリング実施結果

《徳島県徳島市》

①小松海水浴場

《香川県さぬき市》

②津田の松原海水浴場

《岡山県玉野市》

③渋川海水浴場

《京都府宮津市》

④丹後由良海水浴場

⑤天橋立海水浴場

⑥府中海水浴場

- ・所感

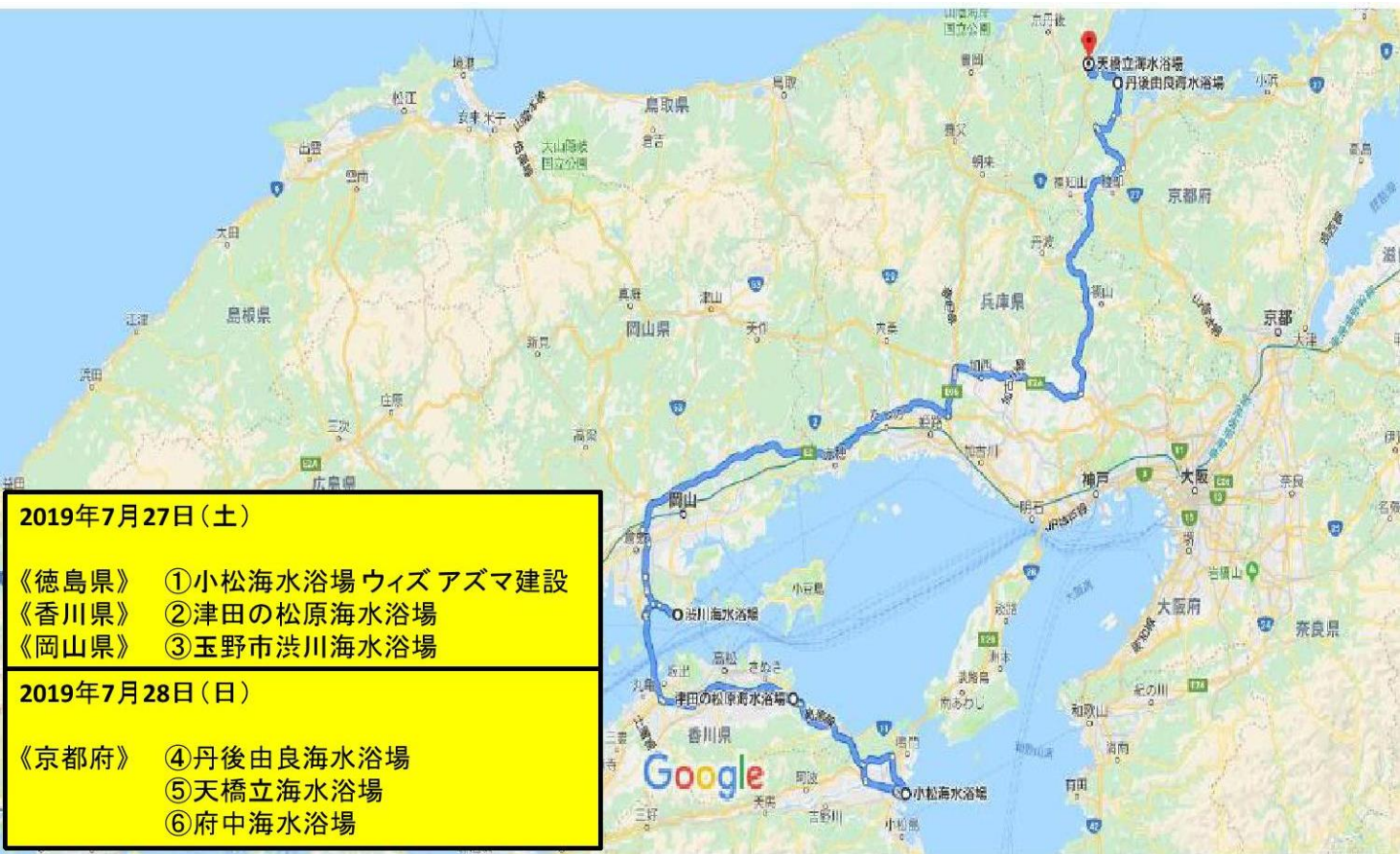
【2019年度JLA海水浴場ヒヤリング目的】

1. 傷病者記録票、パトロールログ、レスキューレポートをはじめとするJLAからの配付物の使用に際して現場で不具合がないか確認し、次年度以降に改善意見を反映したい。
2. 新パトロールユニフォームについて、現場の声を聴取し、来年度に改善できるか模索していく。
3. 今年度実施のシミュレーション審査会参加に伴う社会的効果の広報。
4. ライフセーバーの活動環境実態について調査し、関係行政に改善要望できるか確認(宿や詰所のライフライン、食事など)。
5. 監視救護資器材について医療従事者の有無含め使用実態の確認と関係法令などの伝達。
6. 防災や津波避難等に関する活動について(津波フラッグ、行政との避難訓練、避難経路の掲示)。
7. サメなど海生物に対しての関係行政と対応の確認。
8. JLAに期待する要望などの聴取。

【2019年度JLA海水浴場ヒヤリング項目】

1. 傷病者記録票の活用状況および使用に伴う不具合について。
2. 2019JLAパトロールユニフォームの使用感や改善点について。
3. 10～12月実施予定のシミュレーション審査会の件について。
4. パトロールログ・レスキューレポートの活用状況および使用に伴う不具合について。
5. ライフセーバーの活動環境実態について(宿や詰所のライフライン、食事など)。
6. ジュニア教育や地元消防団含む地域のつながりについて。
7. バックボードやネックカラーの使用実態及びトレーニング環境について。
8. 人工呼吸(バッグバルブマスク)の使用実態及びトレーニング環境について。
9. 医療従事者(医師・看護師)及び消防職員(救命士・標準課程)の関りについて。
10. 活動メンバーの中の公務員の関わり方について。
11. 社会人に対するの待遇について。
12. 津波避難場所、経路の掲示の有無。
13. 津波避難の放送でインフォメーションの有無(フラッグ使用ならカラーは何色か)。
14. ライフセーバーは率先避難者としているか、そして放送でインフォメーションされているか。
15. 海水浴場開設前、開設期間中に津波避難訓練の有無。
16. その他、防災や津波避難等に関する活動について。
17. サメなど海生物に対して関係行政と対応策はあるのか。
18. JLAへの要望や期待することなど。
19. その他、現地で必要と感じた事項。

【2019年度JLA海水浴場ヒヤリング実施ルート】



小松海水浴場, 徳島県徳島市

- 【実施浜】 小松海水浴場 ウィズ アズマ建設(徳島県徳島市)
【クラブ名】 徳島ライフセービングクラブ
【実施日時】 2019年7月27日 11時00分～12時00分
【ご担当者】 源純夏
【調査員】 中川健、田原幸佑、裕見吉朗

1. 傷病者記録票の活用状況および使用に伴う不具合について

活用に向けた事前トレーニングなし。

2019年7月27日、ボディボーダーの負傷事故があり傷病者記録票を初めて使用した。

2. 2019JLAパトロールユニフォームの使用感や改善点について

サーフパンツのサイズ感に戸惑いがある模様。購入年によって色味が違うことに違和感がある。

3. 10～12月実施予定のシミュレーション審査会の件について

チャレンジしたい思いはあるが、日程と場所による。

4. パトロールログ・レスキューレポートの活用状況および使用に伴う不具合について

使用していない。

クラブ内での情報共有を第一にしているため、フェイスブックの非公開グループにログを書き込み、シーズン終了後にそれをまとめて成果報告物としている。

5. ライフセーバーの活動環境実態について(宿や詰所のライフライン、食事など)

《監視活動期間》

2019年7月13日から8月13日

《監視体制》

徳島ライフセービングクラブ(有資格者1名以上含む)

平日3名、土日祝日阿波踊り期間5～6名

管理本部(徳島市公園緑地課、徳島市公園緑地公社、看護師)が常駐する。

《海水浴場》

徳島市小松海水浴場ウィズアズマ建設

奥行 100 m 全長 200 m ビーチのタイプ:砂

監視塔:1塔、パトロール:1～2名

《監視活動に参加している大学LSCなど》

鳴門教育大学大学院、徳島文理大学

《監視期間中の食事の対応状況》

各自持参する。

《監視期間中の宿の手配状況》

なし(自宅から通う)。

《監視本部・詰所へのお湯の供給状況》

電気ポット

《監視本部・詰所への水道の供給状況》

あり

《監視本部・詰所への電気の供給状況》

あり

《その他》

6. ジュニア教育や地元消防団含む地域のつながりについて
ジュニア体験教室、高校でのLS体験を細々と実施している。
近隣消防団に入っているライフセーバーが在籍している。
7. バックボードやネックカラーの使用実態及びトレーニング環境について
十分にできていない。ネックカラーは持っていない。
(2019年秋頃にJPTECファーストレスポonderコースが徳島で実施予定で受講を勧めている)
8. 人工呼吸(バグバルブマスク)の使用実態及びトレーニング環境について
実施していない。クラブで所有をしていない。
9. 医療従事者(医師・看護師)及び消防職員(救命士・標準課程)の関りについて
消防職員(救命士含む)が4名在籍する。
10. 活動メンバーの中の公務員の関わり方について
各所属で確認をとっている。
11. 社会人に対するの待遇について
質問の意図がわからないため答えられない。
12. 津波避難場所、経路の掲示の有無
有り
13. 津波避難の放送でインフォメーションの有無(フラッグ使用ならカラーは何色か)
有り。フラッグは赤。
14. ライフセーバーは率先避難者としているか、そして放送でインフォメーションされているか
クラブとしては「地震・津波発生で避難が始まってから10分以内に自身も避難を開始する」ことを決まりごととしている。インフォメーションはない。
15. 海水浴場開設前、開設期間中に、津波避難訓練の有無
《開設前》
クラブ内で5月に2度実施
《開設中》
海開きの日に開設責任者である徳島市公園緑地課主導で簡易的な訓練が実施される。
16. その他、防災や津波避難等に関する活動について
なし
17. サメなど海生物に対して関係行政と対応策はあるのか
《サメ対応方法》
サメの目撃・発見があった場合は直ちに遊泳禁止。(集団パニックの防止のため)
その後パトロールを実施してサメの存在が否定されたら遊泳注意で再開。
《クラゲ、エイ対応方法、その他()》
原則として、看護師が対応。
18. JLAへの要望に期待することなど
なし
19. その他、現地で必要と感じた事項
なし

小松海水浴場風景(2019年7月27日撮影)



小松海水浴場を中央より南側を撮影



小松海水浴場を中央より東側を撮影



小松海水浴場を中央より北側を撮影

小松海水浴場風景(2019年7月27日撮影)



入口には津波避難の看板が設置されている



入口には注意喚起の看板が設置されている



無料のシャワーや更衣室が設置されている

小松海水浴場風景(2019年7月27日撮影)



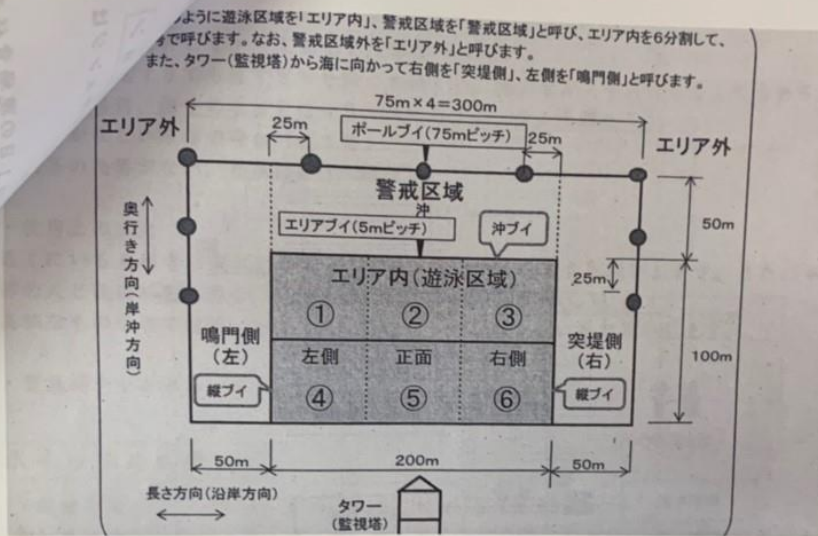


公務員などはボランティアでの活動を明示する腕章を使用



監視所内

小松海水浴場風景(2019年7月27日撮影)



北の脇海水浴場



11

徳島ライフセービングクラブ

小松海水浴場マニュアル



北の脇海水浴場の中央より南側を撮影



北の脇海水浴場の監視風景





7/27(土) 阿南市北の脇

天気: 曇り
 気温: 30°C
 水温: 25°C

水質: ややにごり
 水流: 淡島側1m/分
 波高: 0.5m
 風: 無 m/s

遊泳可 監視員

氏名	すおせ	かし本 浅川			High: 15:00 (125)
					Low: 7:55 (51)
10	ST	ST			長潮

北の脇海水浴場のシフト表は
 コンディションボードと兼用している

津田の松原海水浴場, 香川県さぬき市

【実施浜】 津田の松原海水浴場
【クラブ名】 香川ライフセービングクラブ
【実施日時】 2019年7月27日 13時00分～14時00分
【ご担当者】 直江宏二
【調査員】 中川健、田原幸佑、松見吉朗

1. 傷病者記録票の活用状況および使用に伴う不具合について

今年から取り入れる予定、現在事務局に手配中。

2. 2019JLAパトロールユニフォームの使用感や改善点について

特に問題ない。

3. 10～12月実施予定のシミュレーション審査会の件について

今回は難しいが、メンバーと話して出場してみたいと思う。

4. パトロールログ・レスキューレポートの活用状況および使用に伴う不具合について

PDFをコピーして使用している(今年度からログ使用している)。

5. ライフセーバーの活動環境実態について(宿や詰所のライフライン、食事など)

《監視活動期間》

2019年7月12日(海開き式典は平日)から7月・8月の土日を活動日としている。

《監視体制》

香川ライフセービングクラブ(有資格者名以上含む)10名全員ベーシック取得している。

土日祝日2名以上集まれば活動する。

本部(簡易テント兼監視塔役割)。

夏季期間は管理棟にAEDを置いてもらっている。

《海水浴場》

海水浴場名: 津田の松原海水浴場

奥行 100 m 全長 800 m ビーチのタイプ: 砂、どんぶか 沖は北方向

ライフジャケットを無料貸し出ししている。

ユーリックフォーム会社が海岸近隣のシルバーセンターに資器材を置いている。

《監視活動に参加している大学LSCなど》

大学LSCはなし、社会人のみでボランティア活動している。

《監視期間中の食事の対応状況》

各自持参

《監視期間中の宿の手配状況》

各自自宅から通う。

《監視本部・詰所へのお湯の供給状況》

管理棟から頂く。

《監視本部・詰所への水道の供給状況》

管理棟から頂く、手運びできる貯水タンクに溜めておく。

《監視本部・詰所への電気の供給状況》

なし

《その他》

6. ジュニア教育や地元消防団含む地域のつながりについて
ジュニア活動は行っていない、消防団との繋がりもない。
7. バックボードやネックカラーの使用実態及びトレーニング環境について
今までは器材なかった、今年から詰所に置いてある。
8. 人工呼吸(バッグバルブマスク)の使用実態及びトレーニング環境について
使用していない。
9. 医療従事者(医師・看護師)及び消防職員(救命士・標準課程)の関りについて
消防職員2名
10. 活動メンバーの中の公務員の関わり方について
ボランティア活動としている。
11. 社会人に対しての待遇について
全員ボランティア活動
12. 津波避難場所、経路の掲示の有無
なし
13. 津波避難の放送でインフォメーションの有無(フラッグ使用ならカラーは何色か)
なし
14. ライフセーバーは率先避難者としているか、そして放送でインフォメーションされているか
率先避難者としている。
15. 海水浴場開設前、開設期間中に、津波避難訓練の有無
《開設前》
なし
《開設中》
なし
16. その他、防災や津波避難等に関する活動について
なし
17. サメなど海生物に対して関係行政と対応策はあるのか
《サメ対応方法》
なし
《クラゲ、エイ対応方法、その他()》
クラゲ種類は分からないが刺された方は処置にくる。
処置は洗浄・冷却
18. JLAへの要望に期待することなど
なし
19. その他、現地で必要と感じた事項
なし

津田の松原海水浴場風景(2019年7月27日撮影)



津田の松原海水浴場を中央より北西側を撮影



津田の松原海水浴場を中央より北側を撮影

津田の松原海水浴場風景(2019年7月27日撮影)



津田の松原海水浴場を中央より東側を撮影



津田の松原海水浴場を中央より南東側を撮影

津田の松原海水浴場風景(2019年7月27日撮影)



簡易テントの本部を設置して監視している



メンバーの子どもたちも一緒に海へ来ている

WATER SAFETY
津田の松原海水浴場

ライフジャケット 無料レンタルステーション

- 1 ライフジャケットの正しい着せ方をしよう
- 2 海へ入る前必ずストラップをしよう
- 3 ライフジャケットを着けてもらおう
- 4 海での遊び方をライフセーバーさんに教えてもらおう
- 5 危険な場所にはすぐさま逃げよう
- 6 危険な場所にはすぐさま逃げよう
- 7 危険な場所にはすぐさま逃げよう
- 8 楽しく遊んで、使い終わったらきれいに返してね

つなぐ和が書川プロジェクト ■ 福祉の役割 地元を誇り子どもたちへ
津田の「和が書川」は清流です。その清流の恵から育ち、人々を癒やしてきました。清流の恵を次世代へ伝えるのが、このプロジェクトの目的です。清流の恵を次世代へ伝えるのが、このプロジェクトの目的です。清流の恵を次世代へ伝えるのが、このプロジェクトの目的です。

Maris 新 ユー・ウッホム

津田の松原海水浴場風景(2019年7月27日撮影)



津田の松原海水浴場風景(2019年7月27日撮影)



津田の松原海水浴場入口は松林を抜けていく、風情がある



管理にも工夫を凝らしている

渋川海水浴場, 岡山県玉野市

- 【実施浜】 渋川海水浴場(岡山県玉野市)
【クラブ名】 岡山ライフセービングクラブ
【実施日時】 2019年7月27日 15時30分～16時30分
【ご担当者】 熊澤一彦、藤井正弘
【調査員】 中川健、田原幸佑、松見吉朗

1. 傷病者記録票の活用状況および使用に伴う不具合について

2018年度は2件のECを記載報告。監視ライフセーバー待機場所にパトロールログと一緒に携帯しているが活用の重要性を周知する必要がある。昨年は2件のEC事案について傷病者記録票の提出が遅れ、ご迷惑をおかけしました。

2. 2019JLAパトロールユニフォームの使用感や改善点について

JLA規定に則りユニフォーム着用はクラブ内で定着している。

【改善点】パトロールパンツの前開き内部を赤色に替えて視覚的違和感を防ぐ。

3. 10～12月実施予定のシミュレーション審査会の件について

シミュレーション審査会を開催することで、自他クラブメンバーの技術力向上と上位資格取得を意識させることは大切である。西日本エリアでの九州・関西地区開催を踏まえ、中四国地区での開催を期待します。岡山は中四国地区のハブ的位置にあることから協力を惜しみません。

4. パトロールログ・レスキューレポートの活用状況および使用に伴う不具合について

FALレポートは2017年度までの様式の方が活用しやすかった。当クラブでは渋川海水浴場に常駐の看護師にFALレポートの記載をお願いしており、その日の監視業務終了後にパトロールログへLSが案件をまとめて転記している。

2018年度から新しくなったレスキューレポートは詳細に記入できるので大いに活用したい。今後、サーフLS教本やBLS教本にレスキューレポート掲載を提案します。

※今回、事前のPDFは現場に出てないメンバーも確認できて良かった

5. ライフセーバーの活動環境実態について(宿や詰所のライフライン、食事など)

《監視活動期間》

2019年7月13日(土)～8月25日(日)【毎年7月第2土曜日～8月最終日曜日】

海開き当日に玉野海上保安部、児島消防署、日赤岡山県支部、玉野市観光協会、地元連合会等との合同海難救護訓練に参加している。

渋川海水浴場管理事務所(玉野市委嘱団体が管理)に隣接して救護所(看護師)と警官寄合所(常駐ではない)、男女別シャワー室(有料100円)あり→ライフセーバーは無料で使用させて頂いております。

LSの昼食は一日5時間以上のガード活動参加につき上限700円と交通費2,000円をシーズン終了後支給。(双方とも当クラブが日赤岡山県支部奉仕団体としての活動支援金及びクラブ経費から補填)

《監視体制》

これまで30m沖合に<遊泳エリア区域ブイ&ロープ>と<PWC進入禁止ブイ&ロープ>が設置されていたが本年度は後者がなくなった。

監視台4台(高さ3m, 約80m間隔)があったが、簡易監視台2台に削減された。

沖合約30mに設置されていた浮島(5m×5m)2基も撤去された。

《海水浴場》

海水浴場名: 玉野市渋川海水浴場

奥行50～70m 全長約450m ビーチのタイプ: 砂底、急深(潮の干満により最深部で2.5～5.8m変化)

沖は南東方向

リップカレントはないが、干潮時には海へ向かって右>左へ1.2m/s流れる場合あり。

《監視活動に参加している大学LSCなど》

岡山ライフセービングクラブ、おかやまビーチスポーツ協会、渋川観光協会

《監視期間中の食事の対応状況》

個人対応

《監視期間中の宿の手配状況》

なし

《監視本部・詰所へのお湯の供給状況》

管理事務所にて可能(LS監視場所から距離にして約40m)

《監視本部・詰所への水道の供給状況》

管理事務所にて可能(LS監視場所から距離にして約40m)

《監視本部・詰所への電気の供給状況》

管理事務所にて可能(LS監視場所から距離にして約40m)

《その他》

特記事項なし

6. ジュニア教育や地元消防団含む地域のつながりについて

毎年開催するジュニアライフセービング教室は地元の玉野海上保安部およびJLA支援団体である明石スクールユニフォームカンパニー様に毎年ご協力頂いています。

7. バックボードやネックカラーの使用実態及びトレーニング環境について

海開きイベントにおける海難救助訓練とサーフライフセービング講習会オブザーバー参加者のトレーニングにとどまる場合が多く、実際にBBの使用率は年2~3回。頸椎損傷事例はここ10年間なし。

8. 人工呼吸(バグバルブマスク)の使用実態及びトレーニング環境について

BBMの熟練使用者がいなかったため今まで未使用であったが、今年は常駐の看護師にクラブメンバー(指導員及びアドバンス資格)数名がご指南いただいた。

9. 医療従事者(医師・看護師)及び消防職員(救命士・標準課程)の関りについて

クラブメンバーに看護師、理学療法士、地元消防隊員が在籍。海水浴場常駐の看護師はクラブメンバー看護師の呼びかけによるもの。

10. 活動メンバーの中の公務員の関わり方について

講習会謝金に関しては不請求。それ以外は他のメンバーと同等。

11. 社会人に対するの待遇について

ほぼ全員が社会人であり仕事を持っているため、平日の監視活動に参加できない場合が多い。個々の境遇があるため、ボランティア監視への参加には誠意を持って対応いただいている。

12. 津波避難場所、経路の掲示の有無

波打ち際背後に避難場所・指示あり。掲示場所は1箇所。その他、ホテル、山すそに避難可能。

13. 津波避難の放送でインフォメーションの有無(フラッグ使用ならカラーは何色か)

遊泳フラッグ、EEVフラッグは用意しておらず、遊泳エリアでの放送にとどまる。

14. ライフセーバーは率先避難者としているか、そして放送でインフォメーションされているか

管理事務所への緊急時対応計画には記載して提出しているが、関係スタッフ内で周知は十分ではない。関係各所での連携・理解が必要。

15. 海水浴場開設前、開設期間中に、津波避難訓練の有無

《開設前》

なし

《開設中》

なし

16. その他、防災や津波避難等に関する活動について

ジュニアライフセービング教室で毎年必ずプログラムに含めている。

17. サメなど海生物に対して関係行政と対応策はあるのか

《サメ対応方法》

サメ避けネットがあったが近年目撃なく、今年から撤去された。

《クラゲ、エイ対応方法、その他()》

サメ避けネットにより多少のユウレイクラゲや赤クラゲの侵入と、漂流物に付着しやすい海クラゲの除去が可能であったが、上記同様今年は不安を抱える。

双方とも行政の経済状況により止むを得ずの判断とのこと。

18. JLAへの要望に期待することなど

地方クラブメンバーがスキルアップもしくは経験値向上を期待しても、経済的・スケジュール的に関東地方催事に参加する場合の負担が大きい。

当クラブの発足は23年前、日本赤十字社岡山県支部関係者の立ち上げによるものでボランティア思考が強いが故に活動資金の工面難あり。他団体の地元企業や自治体、行政との関わり方を伺ってみたい。

19. その他、現地で必要と感じた事項

なし

渋川海水浴場風景(2019年7月27日撮影)



渋川海水浴場を中央より南東側を撮影



渋川海水浴場を中央より南側を撮影

渋川海水浴場風景(2019年7月27日撮影)



渋川海水浴場を中央より西側を撮影



渋川海水浴場を中央より北西側を撮影

渋川海水浴場風景(2019年7月27日撮影)



渋川海水浴場の監視風景



有料シャワーが設置されている

渋川海水浴場風景(2019年7月27日撮影)



倉庫には資器材が豊富に保管されている



注意喚起看板が各所に設置されている



渋川海水浴場風景(2019年7月27日撮影)



ビーチスポーツのエリアがある



今年からウォーターパークを設置



現地ライフセーバーと集合写真

渋川海水浴場風景(2019年7月27日撮影)

渋川海水浴場を楽しんでもらうために

1. 海・周辺施設をキレイに! コミを持ち帰るかエコステーションへ!
2. 飲酒後の遊泳、ベットの遊泳、花火は禁止です。
3. 飲酒後は周囲の迷惑にならないように異音注意場所です!
4. 海洋危険生物にはご注意ください。
5. ハーベキューエリア、デイキャンプ場、シャワー室、休憩所のご利用、貴重品類は必ず行政事務所に預けてください。
6. ウォーターパークのご利用受付は⑩にて。
7. ビーチコートのご利用受付は⑩にて。
8. 渋川海水浴場施設全般の営業時間は8:30~17:00です。
9. 自転車乗り入れ、関係車以外乗入禁止力所があります。
10. 遊泳エリア東側は湖の流れが速いのでご注意ください。遊泳禁止エリアでは絶対に泳がないでください!
11. 小さなお子様から目を離さないこと。汚さずの清掃をお願いします。

遊泳禁止	飲酒禁止	花火禁止	喫煙禁止	ペット禁止	自転車禁止	バイク禁止	乗入禁止	乗入禁止	乗入禁止	乗入禁止	乗入禁止

- 【実施浜】 天橋立海水浴場、府中海水浴場、丹後由良海水浴場
【クラブ名】 天橋立ライフセービングクラブ
【実施日時】 2019年7月28日 9時00分～13時00分
【ご担当者】 石井佑子、土谷ころこ、山本良徳
【調査員】 中川健、田原幸佑、松見吉朗

1. 傷病者記録票の活用状況および使用に伴う不具合について

- ・斜体でなく普通の文字にしてほしいです。ふりがな→フリガナに変更。
- ・濡れると書きにくい用紙の素材を改良してほしいです。
- ・普段はAED等を入れたバック内に収納し、ガード本部に保管してある。
- ・実際の現場で使用する際は、緊張状態で何を聞いてよいのかわからなくなる事を防止するために、その一助になるように聴取すべき重要事項から順に数字での表記などがあれば良いと思う。
- ・少人数でのガード時には、記録票の記入に手が回らないことが予想される。

2. 2019JLAパトロールユニフォームの使用感や改善点について

- ・ユニフォームは乾きが早い素材に感じるが、若干各サイズの丈が長く水辺でのパトロール時にはパトロールパンツにまとわりつき動きにくく感じます。
- ・スポンサーの関係があるのでデザインの変更は仕方ないと思うのですが、毎年毎年のデザイン変更は必要なのかと感じています。最新のものを着用してくださいとの通知もあるので。

3. 10～12月実施予定のシミュレーション審査会の件について

- ・エキストラの参加では、他クラブの傷病者への対応や、活動面での工夫、さらに使いやすいうように準備された資機材を見ることができ大変刺激を受ける機会になりました。クラブ内でのフィードバックなどに生かしていきたい。
- ・審査では、後出しジャンケンのようなチェックにならないように、審査のポイント(監視の課題や重要事項)を明確に示し、審査員内でも統一して共有する必要を感じました。
- ・6人体制のガードだけでなく、さらに少人数での監視体制のシミュレーションがあっても良いのでは。

4. パトロールログ・レスキューレポートの活用状況および使用に伴う不具合について

- ・今年度、開始日までに届いていない。
- ・7月の中旬には各クラブへ配布をしてほしい。
- ・「未然防止の声かけ」の欄に、パラソル・浮き具の注意喚起等も明記してほしい。

5. ライフセーバーの活動環境実態について(宿や詰所のライフライン、食事など)

《監視活動期間》

天橋立 7月20日～8月25日の土日祝日、お盆期間

府中 7月20日～8月18日の土日祝日。お盆期間

丹後由良7月20日～8月18日の土日祝日。お盆期間

《監視体制》

契約人数は、天橋立3名、府中2名、丹後由良4名で、それ以上の人数で監視を行えるよう人数確保と役割分担をしている。

《海水浴場》

海水浴場名：天橋立海水浴場

奥行 130m 全長 200 m ビーチのタイプ：砂、砂利、岩場

海水浴場名：府中海水浴場

奥行 80m 全長 350 m ビーチのタイプ：砂、砂利、岩場

海水浴場名：丹後由良海水浴場

奥行 180m 全長 1800 m ビーチのタイプ：砂、岩場

《監視活動に参加している大学LSCなど》

明治国際医療大学LSC

《監視期間中の食事の対応状況》

弁当手配

《監視期間中の宿の手配状況》

ちえの輪館(地元無償提供)

《監視本部・詰所へのお湯の供給状況》

天橋立・府中・丹後由良 ポットで沸かす

《監視本部・詰所への水道の供給状況》

天橋立 近くの水道を本部に延長(クラブで設置作業)

府中・丹後由良 ポリタンク対応

《監視本部・詰所への電気の供給状況》

3浜とも監視所本部に供給あり

《その他》

6. ジュニア教育や地元消防団含む地域のつながりについて

- ・天橋立のみ開催(回数はその年による)
- ・2010年から2018年は日本財団助成によるライフセービング教室を実施した。
- ・地元消防団との関わりはない

7. バックボードやネックカラーの使用実態及びトレーニング環境について

- ・各浜バックボードとネックカラーを配備し、トレーニング時も使用している。
- ・トレーニングの頻度が少ないため、クラブメンバー全体にバックボードでの固定と移動のスキルは定着していない。

8. 人工呼吸(バッグバルブマスク)の使用実態及びトレーニング環境について

- ・天橋立のみ配置。
- ・適切に使用できるメンバーが限られている。

9. 医療従事者(医師・看護師)及び消防職員(救命士・標準課程)の関りについて

- ・明治国際医療大学 救急救命学科の学生(救命士を目指す学生)がガードに入っている
- ・クラブメンバーの中に消防職員がいるため、活動面での意見を聞き、BLSTレーンングでのアドバイスをもらっている。

10. 活動メンバーの中の公務員の関わり方について

交通費として支払い

11. 社会人に対しての待遇について

所属クラブ員に社会人が多いクラブであるため、特別な待遇等はない。

12. 津波避難場所、経路の掲示の有無

特になし

13. 津波避難の放送でインフォメーションの有無(フラッグ使用ならカラーは何色か)

特になし

14. ライフセーバーは率先避難者としているか、そして放送でインフォメーションされているか

率先避難者とはしているがインフォメーションはしていない。

15. 海水浴場開設前、開設期間中に、津波避難訓練の有無

《開設前》

なし

《開設中》

なし

16. その他、防災や津波避難等に関する活動について

なし

17. サメなど海生物に対して関係行政と対応策はあるのか

《サメ対応方法》

なし

《クラゲ、エイ対応方法、その他(ウミケムシ)》

クラゲ→アカクラゲ 処置:海水で洗浄、冷却

ウミケムシ 処置:ピンセットでとげを抜き、洗浄、状態によって病院受診を進める

18. JLAへの要望に期待することなど

- ・JLAフラッグを掲げているが劣化があるため、定期的に新しいフラッグを提供してもらいたい。
- ・OS-1の粉末があるみたいですが、提供されているところとそうでないところがある。
- ・OS-1を提供してもらえるのはありがたいが、環境のことも配慮してPETボトルよりも粉末の提供を増やしてもらいたい。

19. その他、現地で必要と感じた事項

なし

丹後由良海水浴場風景(2019年7月28日撮影)



丹後由良海水浴場の中央より北西側を撮影



丹後由良海水浴場の中央より北側を撮影



丹後由良海水浴場の中央より北東側を撮影

丹後由良海水浴場風景(2019年7月28日撮影)



丹後由良海水浴場の監視風景



丹後由良海水浴場の監視所



丹後由良海水浴場の監視本体内

丹後由良海水浴場風景(2019年7月28日撮影)



丹後由良海水浴場は有料駐車場が隣接している



丹後由良海水浴場風景(2019年7月28日撮影)



天橋立ライフセービングクラブは社会人が多く子供たちも協力して活動している



ハンドシグナルが細かく記載されている

丹後由良海水浴場風景(2019年7月28日撮影)

・由良浜海岸は特別環境衛生モデル地区で
 ・私有地以外はバーベキュー・キャンプは
 全面禁止です
 ・自分のゴミは持ち帰りましょう

パトロール実施中

宮津市・由良自治会・観光協会由良支部

**水上バイク(テトラ以内)
 発着乗入れ禁止**

海を利用される皆さんへ

京都府では、安全に楽しく海を利用していただくため、「京都府遊泳者及びプレジャーボートの事故の防止等に関する条例」により、次の行為を遵守事項や禁止事項としています。

(遊泳に関すること)

- ・みだりに、遊泳者に撥きついたり、危険を生じさせる行為をしないこと
- ・やす等の危害を及ぼすおそれのある器具を危険な方法で携帯しないこと
- ・海水浴場の付近では遊泳域外で遊泳しないこと
- ・酒に酔った状態など安全な遊泳ができない場合は遊泳しないこと
- ・幼児等を遊泳させる場合は、保護責任者が付き添うこと
- ・水難事故の防止のため、連絡員等の指示に従うこと

(プレジャーボートの操縦に関すること)

- ・遊泳区域内には船舶の類を進入させないこと
- ・遊泳区域に接近し、遊泳者に不審を覚えさせないこと
- ・漁業操縦等の付近では通過すること
- ・狭い水路や自家等が近接する海域では静粛を保持すること
- ・酒に酔った状態など安全な操縦ができない場合は操縦しないこと
- ・水難事故を起こした場合は、直ちに負傷者を救護すること

(その他)

- ・遊泳区域の標識を、みだりに移動したり、損壊しないこと

これらに違反した場合は、懲役・罰金を科せられる場合があります。

丹後由良海水浴場
 京都府・京都府警察

丹後由良海水浴場にある注意喚起看板

**危険
あぶない**

消波ブロック(海の中のブロック)
 に乗ると滑って転倒します

海水浴の皆様へ(注意!)

- 波の高い時、風の強い時は海に入らないでください。
- テトラポットより沖へは絶対に行かないでください。大変危険です。
- テトラポットにはのぼらないでください。
- 砂浜がえぐれている部分は深くなっています。ご注意ください。
- 離岸流(沖への強い流れ)が発生する場合があります。十分ご注意ください。(風の強い時は特に危険。流されたうきわを取りにいったりしないでください。)
- 疲れのある方は十分に休憩をとって海水浴を楽しんでください。
- ちいさなお子様から絶対に目を離さないでください。
- ゴミの持ち帰りにご協力ください。

宮津市・宮津警察署・宮津海上保安署・宮津海難防止会・(社)天橋立観光協会

みんなで守ろう! 京都の海のルール!

京都府遊泳者及びプレジャーボートの事故の防止等に関する条例
 施行期日: 平成19年7月1日

遊泳者のみなさんへ

してはいけない!!

- 海中で遊泳中に遊泳域外へ出る行為
- 海中で遊泳中に遊泳域外へ出る行為
- 海中で遊泳中に遊泳域外へ出る行為

守ってください!

- 海水浴場付近では、遊泳域の外で泳がない
- 危険な気象状況の時は泳がない
- 海に酔っている場合は泳がない
- 海水浴場周辺の海に近づかない
- 幼児や泳げない子供を泳がせる場合は保護者などが付き添う

プレジャーボートを操縦する方へ

遊泳者などに近づかない!

- 近づく遊泳者などに近づかない
- 遊泳区域に近づかない

守ってください!

- 遊泳区域に近づかない
- 遊泳区域に近づかない

事故→すぐ救護・通報!

- 水難事故の発生を助けた場合は、海中から救助要請に連絡し、救助を待たせません。
- 人命救助に協力し、救助隊を呼び出します。
- 人命救助に協力し、救助隊を呼び出します。

京都府警察本部・京都府

天橋立海水浴場風景(2019年7月28日撮影)



天橋立海水浴場を中央より南側を撮影



天橋立海水浴場を中央より東側を撮影



天橋立海水浴場を中央より北側を撮影

天橋立海水浴場風景(2019年7月28日撮影)



ライフジャケットが無料レンタルできる



天橋立海水浴場の詰所

ウミケムシに刺された方を処置中



釣り用具を利用したFABOX

天橋立海水浴場風景(2019年7月28日撮影)



天橋立海水浴場風景(2019年7月28日撮影)



詰所の内部



詰所の外には水道が常設されている

天橋立海水浴場風景(2019年7月28日撮影)



天橋立海水浴場の注意喚起看板

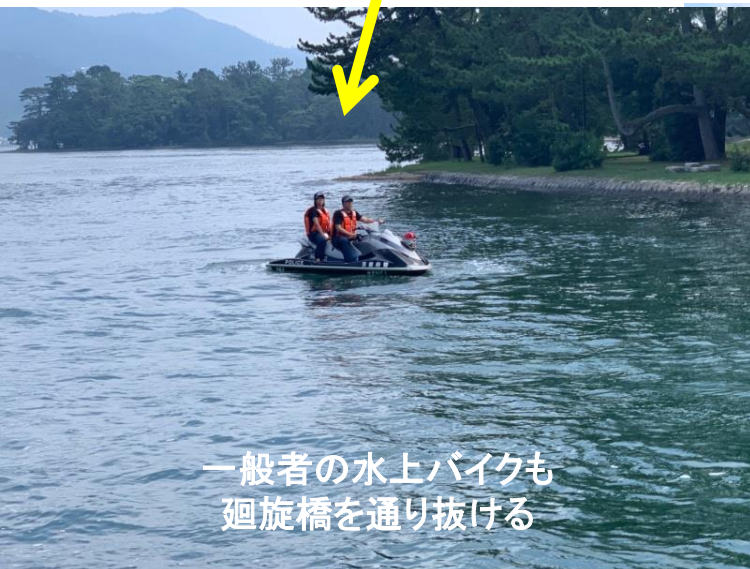


猛暑が続いており
海水浴客のテントは松林に集中する



松の木に似せられた無料シャワー
シャワーはどこか尋ねられることが多い

天橋立海水浴場風景(2019年7月28日撮影)



府中海水浴場風景(2019年7月28日撮影)



府中海水浴場の中央より北東側を撮影



府中海水浴場の中央より南東側を撮影



府中海水浴場の中央より南西側を撮影

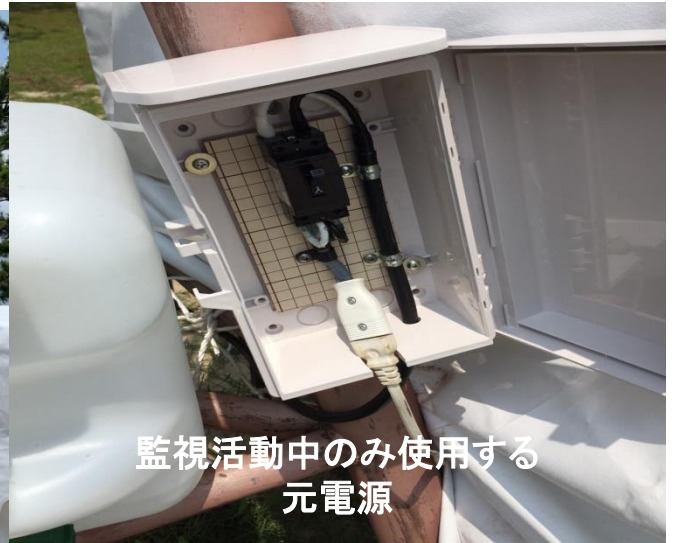
府中海水浴場風景(2019年7月28日撮影)



府中海水浴場の監視風景
当日は人数が少なく、1人シフトでの対応



府中海水浴場の監視塔

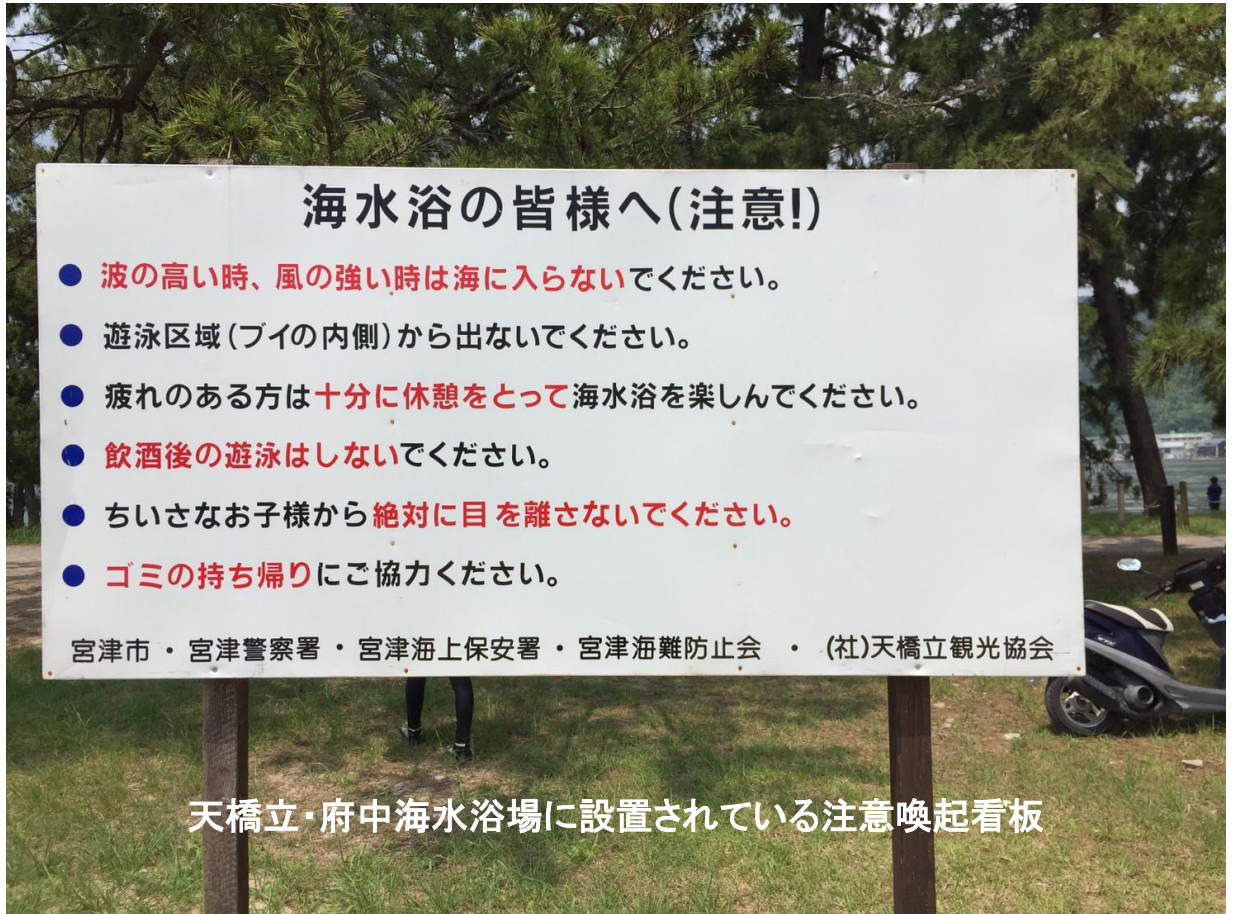


監視活動中のみ使用する
元電源



冷蔵庫・電気ポットが設置、水はトイレから汲んで置いておく





海水浴の皆様へ(注意!)

- 波の高い時、風の強い時は海に入らないでください。
- 遊泳区域(ブイの内側)から出ないでください。
- 疲れのある方は十分に休憩をとって海水浴を楽しんでください。
- 飲酒後の遊泳はしないでください。
- ちいさなお子様から絶対に目を離さないでください。
- ゴミの持ち帰りにご協力ください。

宮津市・宮津警察署・宮津海上保安署・宮津海難防止会・(社)天橋立観光協会

天橋立・府中海水浴場に設置されている注意喚起看板



海を利用される皆さんへ

京都府では、安全に楽しく海を利用していただくため、「京都府遊泳者及びプレジャーボートの事故の防止等に関する条例」により、次の行為を遵守事項や禁止事項としています。

(遊泳に関すること)

- ・みだりに、遊泳者に驚きついたり、危険を生じさせる行為をしないこと
- ・やす等の危害を及ぼすおそれのある器具を危険な方法で携帯しないこと
- ・海水浴場の付近では遊泳域外で遊泳しないこと
- ・波に勝つた状態など安全な遊泳ができない場合は遊泳しないこと
- ・幼児等を遊泳させる場合は、保護責任者が付き添うこと
- ・水難事故の防止のため、漁網等の指示に従うこと

(プレジャーボートの操縦に関すること)

- ・遊泳区域内には船舶の船を進入させないこと
- ・遊泳区域に接近し、遊泳者に不安を覚えさせないこと
- ・漁業操縦等の付近では遊泳させること
- ・狭い水路や民家等が近接する海域では静粛を保持すること
- ・波に勝つた状態など安全な操縦ができない場合は操縦しないこと
- ・水難事故を防止した場合は、直ちに関係者を救助すること

(その他)

- ・遊泳区域の標識を、みだりに移動したり、損壊しないこと

これらに違反した場合は、懲役・罰金を科せられる場合があります。

天橋立前中 海水浴場

京都府・京都府警察



日本三景碑

丹後天橋立陸

奥松島安藝巖

鳴鶴三處奇観

寛政十三年 日本三景碑

林春奇

京都府天橋立宮城
累松島 広島県宮島
は 日本三景である
天橋立
六四三年

天橋立敷地内には立派な石碑が設置されていた

パトロール能力向上委員 所感

今回ヒアリングにご協力いただいた各浜のご対応いただいた方々、当日パトロールに従事されていた方々へ深く御礼申し上げます。お忙しい時期、また、パトロール人員が不足する中でのご対応、本当にありがとうございました。

また、このような機会をいただきました溺水防止救助救命本部の皆様へも感謝申し上げます。なかなか出来ない西日本の各浜へ直接訪れることができ、とても貴重な体験となりました。

今回のヒアリングで一番印象的であったのは、どの浜も人員不足に苦慮されていたと感じました。人員や器材、資金をはじめとした多くの苦難の中、意気込みや熱意を感じ、それぞれの地域や環境に合わせて様々な工夫や苦勞が垣間見れ、学ぶことがとても多いヒアリングとなりました。また、各浜それぞれ創意工夫や努力を積み重ねて来られた結果、各浜のカラーが大きく異なることが印象的でした。

徳島県小松海水浴場では、とてもシステマティックに活動されており、注意事項や津波の案内看板などもわかりやすく掲示されていました。香川県津田の松原海水浴場では、当日は2人で全長800mの浜をパトロールしており、負担が大きい中で熱意をととも感じました。岡山県渋川海水浴場では、施設や器材が充実しており、とても驚きました。京都府3浜では同じクラブにも関わらず、それぞれの環境に対応したパトロールをされており、柔軟性を感じました。中でも府中海水浴場の1人シフトには驚きました。

今回各浜をヒアリングさせていただき、様々なものが充足していない環境の中で、多くの方々が模索しながら育んで来られた英知を見聞きすることができました。その中で献身的に活動されていた皆様とともに、地域の枠を越えて、今後もより良い環境を模索していきたいと思えます。

JLA溺水防止救助救命本部
パトロール能力向上委員
田原 幸佑

パトロール能力向上委員 所感

まず始めに、今回のヒヤリングにご協力賜りました各浜の担当者様に心より深く感謝申し上げます。当日は、監視活動中にも関わらず、貴重なご意見を聴取することができ、大変意義深いヒヤリングを行うことができました。

今回ヒヤリングを実施した各海水浴場は、鳥取県在住である私にとって地理的要因から「近いようで遠い海水浴場」でありました。そんな離れたクラブではありますが、私の地元も含め、どの海水浴場も共通して「国内におけるライフセービング先発地という深い伝統と厚い人材に恵まれた関東圏から遠い後発地である」というディスアドバンテージを有することです。今回ヒヤリングしたどのクラブにあっても、限られた人材と資機材でガラパゴス化するリスクのある中で、ライフセービングの本筋から逸れることなく、それぞれが地元・地域に根ざしていることを感じました。

実際に最も古い1996年に発足した岡山ライフセービングクラブにあっては、今や中四国地方のハブ的立場になっています。また、次に古い天橋立ライフセービングクラブでは、地元の大学クラブと密に連携することで、3浜の管理運営を行なっていました。さらに、四国東部エリアでは、徳島ライフセービングクラブ、香川ライフセービングクラブがより限られた条件の中で広大な浜の監視活動を行なっていました。その一方で、人材や資機材、安定した倉庫やクラブハウス等の慢性的な不足がまだまだ大きな課題となっている現実もありました。

日本ライフセービング協会は、今年度より公益財団法人になったこともあり、今後はより一層の普遍的な利益の増進に努めなければなりません。都道府県協会の設立など、大きな過渡期にありながらも、日本全国各地域で地道な活動を続けるライフセーバー達の声を拾い上げ、活動に適したより良い環境整備に向け、関係部署と連携してまいります。今回のヒヤリングを通して聴取した課題・要望にあっては、早急に関係部署と十分に協議を重ね、皆様へ価値のあるフィードバックを行えるように致します。

末筆ながら、今回のヒヤリング事業の実施にあたり、事前の準備段階から当方の不手際等で至らぬ点が多々ありましたことと存じますが、今後ともパトロール能力向上委員会は元より、溺水防止救助救命本部が展開します事業への変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

パトロール能力向上委員長 所感

1. JLA溺水防止救助救命本部では、レスキューレポート、パトロールログ、傷病者記録票、パトロールユニフォームなどを、全国の海水浴場に配付などしていますが、現地に足を運ばないと、具体的な不具合、改善要望などが聞き取れない。細部は聴取し、より実用的に改善していきたい。
2. ライフセーバーの活動環境は地域によって自然環境、雇用体系、施設・装備などの様々な違いがあります。そこから見えてくる問題点を抽出し、市町村単位ではなく、国に問題解決の糸口が無いのかJLAとして模索していき、ライフセーバーの活動環境をより良いものに改善していきたい。

上記2点から海水浴場ヒアリング事業が始まりました。

今回ヒアリングに協力して下さった各浜の担当者様に深く感謝するとともに、聴取できた検討事項など、関係部署に問題を伝達し、実現可能か総括的に判断し進めてまいります。

今年度ヒアリングを実施した四国・中国・関西地方では、社会人中心に監視活動されている地域が多くあると感じました。また自宅から通うメンバーも多く、中には100km～150kmを自家用車で移動されて、監視活動に参加する方の熱意には胸を打たれました。

また、多くの地域で警察官の巡回があるなど公的機関との情報交換する場面もみられて、連携が取れていました。そして、海水浴場は町の活性化の場所にもなっているとも感じました。

ジュニア活動が盛んな地域では、施設や環境が整っており、大きな倉庫には資器材を保管されたり、地域の協力体制も強いと感じました。その他、トイレやシャワーなど設備の整っている地域が多く、お客様が安全で楽しい時間を過ごせる体制が整っていると感銘した次第です。

地域ライフセーバーからは、パトロールユニフォームについて、過去により多くのご意見を反映させた結果が少しずつ出ているようで『使いやすくなった』との意見を多く頂きました。これからも現場の声を重視できるように整えて参ります。

パトロールログや傷病者記録票に関しては、全ての現場で監視活動が開始前に郵送できなかった事、深くお詫び申し上げます。本部・事務局と連携して次年度までには整えて参ります。

今後も、関係省庁と協力し、地域のクラブのご協力のもと、国際ライフセービング連盟からの指導のとおり、日本の水辺で外国人も理解できる安全を第一に考えた、世界基準となっている統一旗の普及を推進していきます。

2020年度もこの事業は継続し、皆さんと一緒に我々の活動環境をより良いものに整えていきたいと希望します。

JLA溺水防止救助救命本部
パトロール能力向上委員長
中川 健